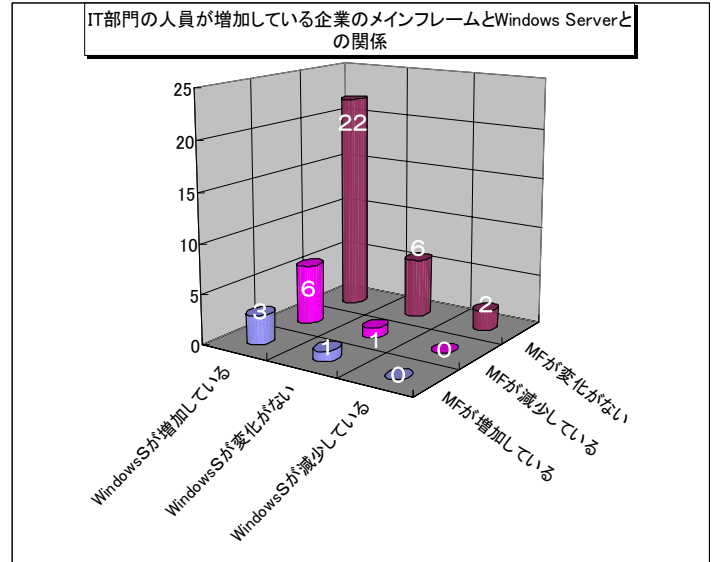
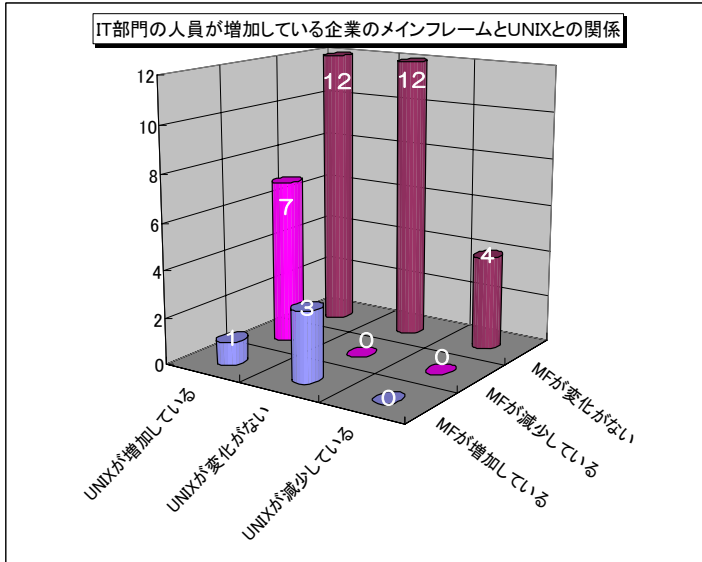


## クロス集計分析 1 IT部門の現状

IT部門の人員の増減とマシン環境の相関関係を浮き彫りにして、今後の運用部門の役割などを考察していきます。IT部門が増加していると答えた企業は、全体の37%となっています。

その37%のうちマシン環境は下記のようになっています。(無回答・複数回答あり、数字は回答数)



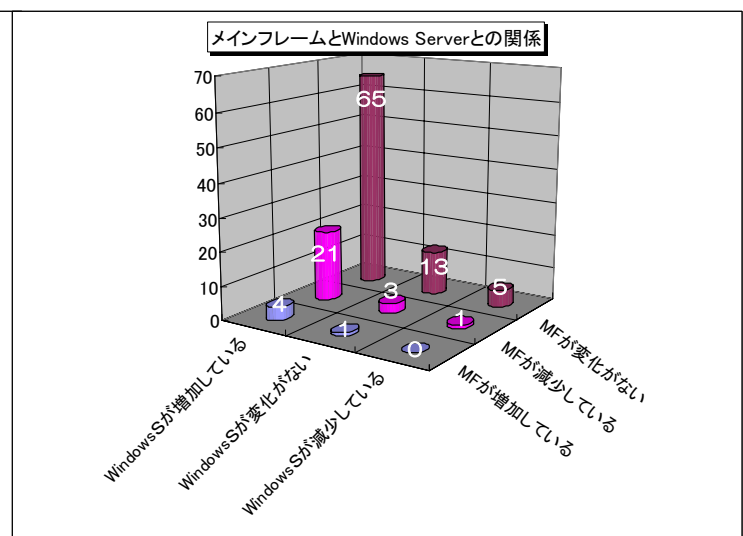
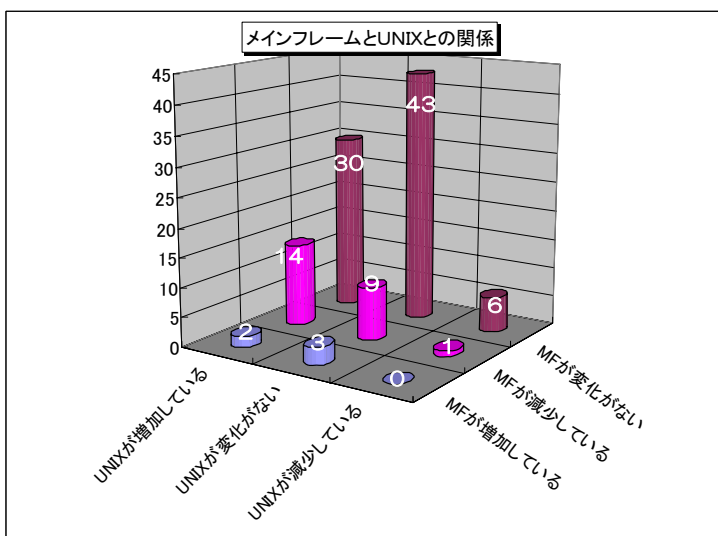
(図1: IT部門の人員が増加している企業のメインフレームとUNIXとの関係)

(図2: IT部門の人員が増加している企業のメインフレームとWindows Serverとの関係)

人員が増加している企業のうち約60%の企業は、UNIXもしくはWindows Serverを増加させています。また、メインフレーム減少もしくは変化がないと回答した企業では、65%の企業がUNIXもしくはWindows Serverを増加させています。

このことは、昨今の各企業におけるメインフレームからのマイグレーションもしくは、一部のシステムのダウンサイジングによりシステム開発案件の増加に伴い、企業におけるIT要員の増加を促しているのでしょうか？

各企業におけるメインフレームとUNIXやWindows Serverの関係は図3・図4のようになります。



(図3: メインフレームとUNIXとの関係)

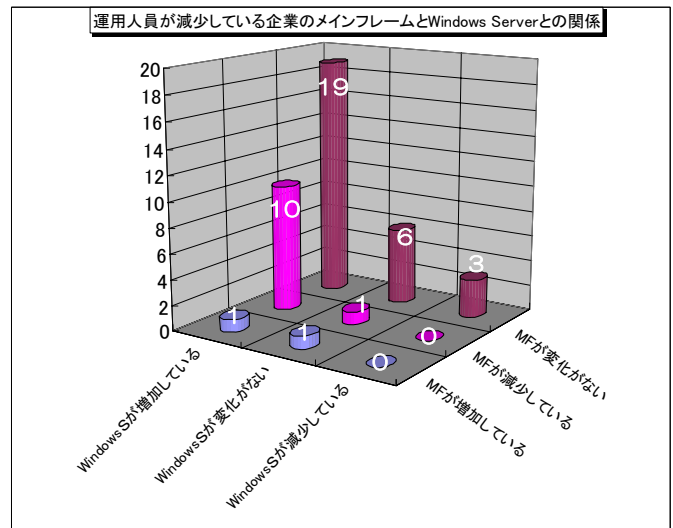
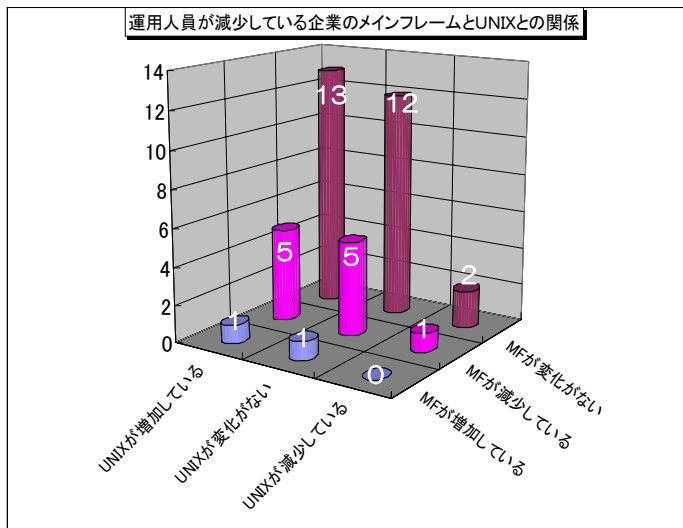
(図4: メインフレームとWindows Serverとの関係)

過去2年間の比較なのでメインフレームの変化がない企業が75%を占めていますが、UNIXやWindows Serverの増加率を考慮すると、確実にマイグレーションもしくは一部のシステムのダウンサイジングが進んでいると思います。

この状況下において、運用部門の人員との関係はどのようになっているのでしょうか？

運用部門が減少していると回答した企業は、35%（43名）（無回答・複数回答あり）となっています。

その35%のうちのマシン環境は下記のようになっている。（無回答・複数回答あり）



（図5：運用人員が減少している企業のメインフレームとUNIXとの関係）

（図6：運用人員が減少している企業のメインフレームとWindows Serverとの関係）

運用人員が、減少しているにもかかわらず、UNIX（50%）やWindows Server（73%）が増加している企業が大半を占めているという結果になっています。また、グラフにはありませんが、この結果に運用人員が2年間変化がないと回答した企業で、分析するとUNIXやWindows Serverを増加した企業は80%を超えています。

以上のような結果を考慮すると、下記のような状況が浮き彫りになります。

- メインフレームは、ここ2年間で減少もしくは変化がない
- IT部門の人員は、サーバーなどの増加に伴い増員している
- しかし、運用人員のあまり増加はしていない。

今回の設問にはないのであくまでも推論の域ではありますが、運用部門が増員していないで、サーバーが増えているということは、現在サーバーの開発段階なのか？運用部門ではなく開発部門が業務運用を見ているのか？運用部門では既に、監視ソフトなどの運用パッケージを導入して、運用コストがあがらない努力を既に済んでいるのか？など、沢山の疑問点が出てきました。どちらにしても、今後サーバーの本番業務が増加することは間違いありません。また、現在開発部門で面倒見ているとしても、運用部門への運用業務の引継ぎなどで揺り戻しが考えられます。運用部門としては、このバラバラなハード、バラバラなOSの環境下でいかに束ねて運用するかが、重要な課題となることは、間違いありません。

次回以降のベンチマークデータを実施する際には、この辺を浮き彫りにしたいと考えております。